日本共産党区議会議員
JapaneseCommunistParty
安藤たい作
区政報告　ニュース　第48号

皆が笑顔になれる放課後づくりを

一般質問報告（中）「留守家庭児も障害児も安心して通えるすまいるスクールへ改善を」

12月7日閉会した第四回定例議会で、私（安藤）が行った一般質問の報告第二弾。三本のテーマで行いましたが、今回は、「すまいるスクール」（放課後児童健全育成事業）の改善の問題です。

②「留守家庭児も障害児も安心して通えるすまいるスクールに改善を」

品川区は、05年に学童保育を全廃、全児童を対象にした「すまいるスクール」への再編成を完了。役割の違う二つの事業を一体化することによる問題が懸念されます。私は質問にあたり、飯沼議員と4小学校の「すまいる」を視察。問題点が見えてきました。

求められる学童保育機能の確保・復活

学童保育とは、日中留守家庭となる子ども達に安全な生活の場を提供し、親の就労を保障する児童福祉法に位置づけられた事業。10月に厚労省が発表したガイドラインでは「休養スペースの確保」の他、児童一人あたりの最低面積や集団規模など、きめ細やかに基準が示されています。ところが、全児童を対象にし、登録制で来るのも来ないのも自由。専任職員は一人だけ、あとはほとんど派遣労働者でまかなわれている体制の「すまいる」は、日々利用する子どもも、子どもに関わる指導員も固定せず、継続性が作りにくい仕組み。「ガイドラインで示す学童保育機能がどこに位置づけられているのか」の質問に、区は「従前通り保持されている」「留守家庭児に限っての参加状況の把握は必要ないのでしていない」「何ら支障は生じていない」などの答弁に終始しました。

行政は現場の努力に委ねず条件整備を

その他「すまいる」では全部で約二百人、多い学校では11名の障害児を受け入れていますが、きちんと見られる体制はとられておりません。これでは親も子どもも、現場スタッフも気の毒です。

「最低基準」が全くないために学校によっては専用室が全くないなど、設備等に格差があるのも問題です。

質問に先立ち、「すまいる」の質問をすると聞いた地域の方が、控え室に。「孫娘がすまいるに行かなくなってしまった。今は友達と遊んでいるようだが、こんなご時勢だから心配。お兄ちゃんが学童に通っていた時はそんなことはなかった」と話してくれました。総じて、行政がきちんと子どもを見る体制を整える姿勢に欠けると感じます。現場の良心や個人的な奮闘にのみ頼るのではなく、それを支える具体的な支援が求められています。

忘年会シーズンもピーク？？地域の共産党では忘年会を「望年会」と呼んでいるところが多いです。なんとなく「らしい」なぁ、と感じます。

漫画：安藤たい作

安藤たい作プロフィール　'74年宮城県仙台市生まれ。国立宮城教育大卒。'98年漫画家を志し上京。'02年青年誌奨励賞受賞。'06年の区議補選で初当選。

安藤たい作ニュースは、「品川区議会における政務調査費の交付に関する規定」で定める使途基準「広報・活動費」に基づき、政務調査費によって発行されています。ご意見・ご感想をお寄せください。